

English Dictionary

English Dictionary

English Dictionary

English Dictionary

English Dictionary

English Dictionary

English Dictionary

English and American Literature and English Linguistics 英米文学・英語学専修

この専修では、英米文学と英語学に関する専門的知識を得るとともに、英語の総合的運用能力を習得することを目指しています。

そのため、アカデミックな講義・演習に加え、外国人教師による演習や海外留学や資格試験合格を視野に入れた実践的な授業を行います。

英米文学を専攻する学生は、英米を中心とする英語文学世界の全体的輪郭、ジャンルの特性、その成立・発展の状況等を文化的視野の中で把握します。それをふまえ、小説・詩・劇・批評などの具体的作品を取り上げ、テキストを正確、綿密に読む訓練を通して、文学研究の方法論を学び、文学センスを磨きます。学生は、各自の関心に基づき自由に研究テーマを選ぶことができ、それを卒業論文にまとめます。

英語学を学ぶに当たっては、理論と運用の両面にわたって英語の実際の姿を観察し、また英語学の研究史上重要な文献を読み、広く用例を収集・分析して、現代英語の構造やその特徴を把握することが基本となります。最近の英語学では、英語の音韻、文法、意味だけではなく、言語習得、発話行為や談話構造、言語と認識、日英語の比較研究も盛んです。講義、演習等は、これらの多様な研究に応じられるように配慮されています。



英米文学



英語学

何を学んでいるの？

英米文学入門

数ある英米文学の傑作を取り上げ、英語原文を抜粋で講読、また映画版をダイジェストで視聴しながら、各作品世界の魅力を英米文学に親しんだことのない人にも分かりやすく紹介します。

英語学の基礎

英語の文法事象について、言語学的な視点から分析する方法を学びます。高校までの英語の捉え方と言語学的な捉え方の違いを学び、より英語を深く理解できるようになることを目指します。

どんな授業があるの？

[講義題目]

アメリカの劇作家について
物語更新理論入門
意味論・語用論入門
英語史入門

[演習題目]

『エマ』を読む
Eitanka Writing Waka in English
ハンズオン英語学演習
生成文法の考え方

教員

かたふち・のぶひさ

片淵悦久 教授

いしわり・たかよし

石割隆喜 教授

やまだ・ゆうぞう

山田雄三 教授

たなか・えり

田中英理 教授

もりもと・みちたか

森本道孝 教授

まぶち・えり

馬淵恵里 准教授

ほんだ・たかひろ

本田隆裕 准教授

ポール・ハーヴィ

Paul A. S. Harvey 外国人講師

おおたに・しゅうき

大谷修樹 助教

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

Analyzing Female Homosocial Bonds in Caryl Churchill's *Top Girls*

現代イギリス演劇作家 Caryl Churchill の代表作である *Top Girls* を取り上げ、Sedgwick の論などを援用しながら、様々な背景を持つ作中の女性キャラクターの繋がりや「ホモソーシャル関係」と見なすという新しい視点から丹念に分析するもので、彼女らに共通する「辛い体験」や「厳しい環境」を演劇作品内のセリフやト書きから丁寧に読み取っている。(選：森本道孝 教授)

[卒業論文題目]

The Unfeasibility of Reverse Imperialism in
Wuthering Heights
Analyzing Female Homosocial Bonds in Caryl
Churchill's *Top Girls*
The Reclassification of Factive Predicates
Pragmatic Effects of Declarative Questions

英米文学・英語学専修では英語で30枚の卒業論文を作成することが必要となります。ハードであるもののやりがいと達成感を味わえるこの体験の達成に至る手助けの方法の一つとして、英米文学分野では、11月末に琵琶湖を臨む滋賀県の「白浜荘」にて、1泊2日での「卒業論文指導合宿」という新たな試みを、英米文学で卒業論文を執筆する4年生を主たる対象として、2018年度より行っています（2020～2023年度は不開催）。英米文学での卒業論文執筆に関わる指導の流れとしては、4年生の7月末に対象作家や作品などについての構想を報告する場がまず設けられ、10

月末に中間発表という形で、より具体的な論文の構想・展開について報告をします。そのうえで、11月末の合宿では、少なくとも卒業論文の第1章となる予定の原案を英語で準備し、それを基にした発表を聞き、教員および先輩である大学院生が、さまざまなコメントやアドバイスをします。さらには、食事や懇親会の場などでの、学生同士、教員や大学院生との交流も大きな意味を持っています。

2018年度は9名、2019年度は4名という英米文学で卒業論文執筆の4年生は全員参加をしてくれました。また、大学院生の参加に加え、2019

年度には卒業生有志も参加をしてくれたことで、就職活動や就職後の生活に関わるアドバイスも共有することができているようです。また、合宿後の4年生たちは、学生研究室とともに励まし合いながら論文執筆を進めるなどお互いに切磋琢磨する機会が増え、さらには演習科目などで授業の場での発表にも、成長をうかがえる効果を見て取ることができています。このように学びという面での実りの多いイベントを、2024年度より再開しています。専修決定後の2・3年生の参加も想定しています。



「英語学」はどんなことをする学問か？

分野紹介

英語学という学問分野は大学入学前にはあまり馴染みのない方が多いと思います。「英語のより詳しい文法を学ぶ」とか「英語の細かいニュアンスが掴めるように勉強する」と考えるかもしれません。こうしたことは、英語学でやることの一部に入っていますが、英語学の研究の力点はもう少し違ったところにあります。

英語学は、広くは言語学の一分野です。言語学は、自然言語の仕組みを理解するのが目標です。その中には、音声、語の仕組み、文を作る仕組み、意味理解の仕組み、社会における言語、言語の歴史の変遷などの分野が含まれています。英語学では、このような観点から「なぜ」英語が今

あるような姿をしているのか、英語話者の持つ英語に関する（暗示的）知識はどのようなものか、を明らかにしようとしています。

英語学では、講義や演習を通じて、英語をまるで自然現象を観察するときのように「収集・観察・分析」し、なぜそのような姿をしているのかについて「説明」を与えるという訓練をしていきます。ですから、初めに述べた「詳しい文法」や「細かいニュアンス」を学ぶことをさらに超えて、「なぜ英語はそんな規則を持っているのか」、「なぜこの英語の表現がこうしたニュアンスがあるのか」と考えていくのが英語学だ、ということになります。

英語を勉強していて、こうした疑問を持っている人や、日本語との違いが気になっている人はぜひ英語学を学んでみてください。